

2014年  
12月9日  
火曜日

秋吉史夫 准教授（金融論）

# 貧しい人々のための銀行

2006年のノーベル平和賞を受賞したのは、グラミン銀行というバングラデシュの銀行とその設立者であるムハマド・ユヌスさんでした。その受賞理由は、「貧しい人々が必要な資金を借りることを可能にし、貧困の削減に貢献した」というものでした。今回は、ユヌスさんとグラミン銀行の取り組みを題材に、金融の役割について考えてみたいと思います。

ユヌスさんが、のちのグラミン銀行につながる「貧しい人々のための銀行」を作ろうと考えたのは、1970年代のことでした。大学で経済学を教えていたユヌスさんは、あるとき農村に調査に出かけました。そこで彼は、竹の椅子作りで家計を支えている一人の母親から、「一日中椅子を作り続けても、わずか2セントの収入にしかならない」という話を聞いてショックを受けます。

彼女には材料の竹を買うためのお金22セントがなく、椅子の商人から借りの言い値で売ることになっていたので、椅子は安く買ったかれ、借金を返すと2セントしか彼女の手に残りませんでした。これでは家族が食べていくのが精いっぱい、子供達に十分な教育を受けさせることはできません。貧困からの脱出は絶望的な状況でした。

彼女の話聞いた後、ユヌスさんは、彼女が今の貧困から抜け出すためには何が必要なのかを考えました。彼女に足りないのは、材料を買うためのわずかなお金でした。もし誰かが材料代を貸すことができれば、彼女は椅子を商人の言い値で売らずに済み、今よりも収入を増やすことができるでしょう。そうすれば貧困からの脱出の道が開けてきます。

そう考えたユヌスさんは、自分のポケット・マネーから、竹の椅子作りの女性のようにお金を稼ぐ能力を持ちながら資金不足のために貧しい生活を強いられる42人の人々に貸し出しました。これが、2006年には577万人の人々に貸出を行うようになったグラミン銀行の出発点になったのです。

グラミン銀行がスタートしたとき、多くの金融の専門家は、グラミン銀行はきつと失敗すると考えていました。貧しい人にお金をきちんと返してもらおう仕組みをつくることは難しいというのが、当時の常識だったのです。

しかし予想に反して、グラミン銀行は大成功を収めました。その理由は、画期的な返済の仕組みを作り出したことにあります。お金を借りる人々に5人で1つのグループを作っ

てもらい、メンバーの返済に連帯して責任を持ってもらうことにしたのです。同時にグループの仲間意識を深めるための様々な活動が行われました。お金を借りた人は、他のメンバーに迷惑を掛けたくないという思いから、きちんと返済をしました。その結果、グラミン銀行は、99.9%という驚異的な返済率を実現できたのです。貧しい人々から返済されたお金は、また別の貧しい人々に貸し出されました。こうして多くの人々が、グラミン銀行から借りたお金を利用して貧困からの脱出に成功していったのです。

最近起きた金融危機のように、時に金融は暴走して、人々の生活を不安定にします。しかし、ユヌスさんとグラミン銀行の取り組みのように、金融は人々の生活を豊かにする力を本来持っているのです。